

2023年 エバーグリーン藤枝第19回企画

## 市田真理さんから学ぶ

あやまちをくいかえさないために、わたしには何ができるのだろう

### 平和の『語りつぎ部宣言』 ～第五福竜丸は今も航海中～



市田真理さん

市田真理（いちだまり）さん

第五福竜丸展示館学芸員。

中央大学・立教大学兼任講師、明治学院大学国際平和研究所研究員

札幌生まれ。書籍編集者などを経て第五福竜丸展示館の資料整理、

企画などに携わり、2013年より公益財団法人第五福竜丸平和協会職員。

著書：『ポケットのなかの平和』（平和文化）

共著：『フィールドワーク第五福竜丸展示館』（平和文化）

『第五福竜丸は今も航海中』（現代企画室）

論考：「核の記憶とともに」第五福竜丸展示館」

（蘭信三ほか編『なぜ戦争記憶を継承するのか』（2021 みずき書林）

「記憶をつなぐ船・第五福竜丸—被ばく者大石又七との協働を通して」

（『戦争社会学研究』第6巻 2022）

体験者（語り部）から語りつぐ『語りつぎ部』を宣言

日時

3/12 SUN

13:00～開場・受付 第五福竜丸被災の歴史映像、展示

13:30～開会 エバーグリーンの活動紹介

高校生による朗読劇

14:00～市田真理さんのお話し

15:30～トークセッション・質疑

16:30～交流会



会場

藤枝市生涯学習センター

参加費 500円 学生以下：無料

発熱・せき等の症状がある方の参加はご遠慮ください。マスクの着用をお願いします。  
コロナウイルス感染症拡大状況によっては、中止する場合がありますのでご承知おきください。

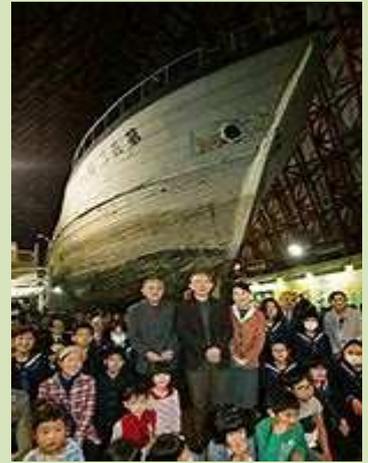
【問い合わせ・申し込み】

山口：090-9663-6101 george2525peace@yahoo.co.jp

橋本：090-1864-4887 hashijun@xf7.so-net.ne.jp

【後援】 藤枝市・藤枝市教育委員会

知っておかねばならない過去のできごとがある。  
 解決せねばならない現在の課題がある。  
 それらと向き合わずに、どうして未来を語れようか。



## いつだって「エバーグリーン」、いつまでも「エバーグリーン」

2003年、「平和をつくるために地元で何かできないか」と立ち上げた「エバーグリーン」の活動は今年で20年目を迎えます。教員、市民、高校生、大学生、若者が実行委員会を結成し、これまでに18回の写真展・映画会・講演会を行ってきました。長倉洋海、高遠菜穂子、広河隆一、堤未果・森住卓、山本敏晴、四之宮浩、足立力也、豊田直巳、玉本英子、伊東英朗、伊藤めぐみ、「種まきうさぎ」上映会、ジャン・ユンカーマン監督「沖縄うりずんの雨」上映会、桃井和馬、ICANの川崎哲氏等々。2020年には焼津の吉田恵美子さんを招き「デンマークから学ぶ一平和のための底力」、2021年には堀川文夫・貴子夫妻から「福島原発事故から10年—愛するふるさとのために、私には何ができるのだろうか」、昨年2022年には佐野陽子さん「満蒙開拓とは何だったのか」を学びました。「主権者は主催者から」「めんどくささ引き受け、楽しむ」「作って、食べて、つながって」を合言葉に、平和や人権について学習し、地域に発信し続けています。

2009年からは「平和をつくる旅」と称して長野の「無言館」、京都「立命館大学平和ミュージアム」、伊豆市「妙蔵寺」の佐治妙心（麻希）さん、東京夢の島の「第五福竜丸展示館」と「ひとみ座」を訪問。17年には埼玉の「原爆の凶丸木美術館」を見学して秩父ユネスコ協会の若者たちと交流、18年「山梨平和ミュージアム」、19年には再び「無言館」、昨年22年は長野県下伊那郡阿智村の「満蒙開拓平和記念館」と高知「幡多ゼミナール」を訪れ、平和のために自分には何ができるのだろうか、考え学ぶことができました。

2011年からは、焼津平和賞を受賞した高知県の「幡多高校生ゼミナール」との交流が始まり、高知と福島の高校生と共に「韓国・平和の旅」に参加しました。これを機に私たちも、第五福竜丸と放射線被ばくについての学習と調査を開始。当時中学生で原水爆反対署名を始めた杉村征郎さん、第五福竜丸の乗組員だった故見崎進さん、故池田正穂さん、焼津漁港の職員だった北原茂治さん達のお話を聞く会をもちました。

2013年、14年には「平和をつくる旅・核被災に向き合う青年・学生の集い」に参加し、福島の被災地に学び、核被災に関する歴史と、これからを担う若者のあるべき姿について語り合いました。

毎年8月の「藤枝市平和展」では、高校生や若者による「青春の鼓動～平和だからこそ～」を、主催者として楽しみながら企画運営しています。



来年2024年はビキニ被災から70年。世界で核廃絶が求められる一方で、原発事故やウクライナでの原発を狙った攻撃、核兵器使用の脅威等があり、第五福竜丸被災は「遠い過去のことではなく、未来の命に関わる問題」です。

ひとつの思いを持って行動していると、様々な出会いがあり、つながりができ、世界が大きく広がります。一人の力は小さいけれど、その一人ひとりの力が集まれば、とても大きな流れをつくることができます。

是非、一緒に考え、行動しましょう！